日刊建設工業新聞
平成 22 年 11 月 17 日　掲載

東京都市大学 世田谷キャンパス 新１号館が起工

五島育英会

13年12月末の完成目指す

東京都市大学を運営する五島育英会が、同大世田谷キャンパス（東京都世田谷区）内に計画している「新1号館」の起工式が16日、現地で行われた。設計・監理は東急設計コンサルタント、施工を東急建設・大成建設JVがそれぞれ担当。13年12月末の完成を目指す。起工式では、東急設計コンサルタントの藤島茂社長が鍬、五島育英会の山口裕啓理事長と東京都市大学の中村英夫学長が鍬、東急建設の飯塚恒生社長と大成建設の山田文啓常務建築営業本部長が鋤を入れ、工事の安全を祈願した。

新１号館の完成イメージ

新1号館は、建築面積約3500平方㍍、RC一部S造地下1階地上4階建て延べ約1万500平方㍍の規模。地下1階に学生支援センター・メーンエントランス・教室、2～3階に教室・ラウンジ・研究室を設け、4階に大学の事務室を配置する。太陽光発電設備や屋上・壁面緑化など環境面にも配慮した施設とする。

工事は2期に分けて行われる。1期では全体規模の約半分の施設を11年12月末までに建設。隣接する1号館の機能をその施設に約4カ月間かけて移した後、1号館を6カ月の工期で解体。12年10月から2期工事として、解体後の敷地に残り部分を建設し、1期で建設した施設とつなげる計画だ。

起工式後の直会で山口理事長は「新1号館は大学の本部としての機能を有するほか、学生の満足度を高めるための施設として整備される。環境に優しい施設を計画しており、多くの人に愛される施設となってもらいたい」とあいさつ。藤島社長は「教室や事務室などが安全性・快適性・独立性を確保をしながら、コンパクトに集約するよう計画した」、飯塚社長は「3年にわたる全工期を無事故無災害で終えるようにしたい」と述べた。

設計・監理＝東急設計コンサルタント、施工＝東急建設・大成建設JV

鎌を入れる藤島社長

鍬を入れる山口理事長

鍬を入れる中村学長

鋤を入れる飯塚社長

鋤を入れる山田常務

木住野龍也所長（東急建設）の話

「学生がいる中で、3年間という長い工期となる。近隣への配慮はもちろん、学生生活に支障がないよう気を付けたい」。

●無断転載禁止
●著作権は日刊建設工業新聞に帰属します
●転載承認済

東京都市大学グループ
学校法人 五島育英会